

# 大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」派遣の成果と課題 ～放課後子ども教室の充実・活性化に向けて～

広島県立生涯学習センター  
社会教育主事 小早川 かおり

## 1 はじめに

広島県教育委員会（以下、県教委）では、放課後子ども教室推進事業の取組を進めている。

この事業は、総合的な放課後子ども対策の一つである放課後子ども教室について、小学校の余裕教室や児童館・公民館などを活用して、すべての子どもを対象に、地域住民の参画を得て行われるものである。学習活動やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子どもが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを進めるものである。

広島県内の放課後子ども教室においては、これまで地域のボランティアの協力を得て、勉強やスポーツ、伝統的な遊びの体験や高齢者の交流などの活動が実施されてきている。

しかし、地域によっては、ボランティアの確保が難しいといった課題があった。そこで、昨年度から県教委が放課後子ども教室に大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」を派遣している。

本調査研究では、学生が放課後子ども教室で活動したあと、学生と市町スタッフから回収したアンケート結果を基に、「ワクワク学び隊」の派遣において、大学生にどのような力を身につけることができたのかについて調べ、まとめることとした。

## 2 大学生のボランティア活動への期待

### (1) 大学生のボランティアの全国的動向

まず、はじめに大学生自身のボランティア活動に関する考えについての調査結果の概要から見ていきたい。この調査は、平成17年度に独立行政法人日本学生支援機構が行った学生ボランティア活動に関する調査であり、全国211大学学部2・3年在学生（国立43大学、公立9大学、私立159大学）を母集団とし、5,000件を抽出し調査を行い、有効回収件数4,036件、回収率80.7%のものである。

調査結果の中から、次の3点について見ていきたい。まず、1点目は、ボランティア活動体験についてである。ボランティア活動体験が「ある」と回答した学生は全体

の65%で、社会福祉学系学部、教育学部に多い。2点目は、ボランティア活動のきっかけについてである。半数以上の学生が「自発的な意思で」ボランティア活動をはじめている。最後に、3点目は、ボランティア活動での満足度についてである。全体の65%の学生が「満足している」と回答している。その理由は、「楽しかった」「ものの見方、考え方が広がった」、「友人や知人を得ることができた」が上位をしめている。

この全国調査の結果から、大学生は、ボランティア活動に興味・関心があり、積極的にボランティア活動に参加していることが分かる。また、ボランティア活動に参加している多くの大学生は、実際の活動後に、活動したことがよかったと感じている。このことは、大学生の成長の一つとして理解することができる。

## (2) 大学生のボランティア活動が求められる背景

次に、大学生のボランティア活動が、今、社会の中で求められている背景について見ていきたい。

平成7年に起きた阪神・淡路大震災において、救護にあたった延べ150万人のボランティアの40%は全国から集った大学生であった。また、平成23年に起きた東日本大震災においても多くの大学生が現地に駆けつけた。これらを契機に近年は大学でのボランティア教育が重視されるようになってきた。また、自治体などからもボランティアとしての大学生の役割が見直されてきている(参考文献①, i頁)。学生はボランティアに参加し、人のために活動することを通して、人間的に成長していくことができるという教育的意義が分かってきた。

国の答申などから見ていくと、平成14年7月には、中央教育審議会から「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の答申が出されている。その中で、今日の青少年をめぐる様々な問題を解く糸口として「奉仕活動・体験活動」を奨励・支援することの重要性が説かれ、大学等を含め、社会全体で活動を推進していくための仕組みや社会的機運の醸成の必要性が提言されている。また、平成14年の文部省大学審議会中間まとめ「21世紀の大学像と今後の改革方策について 競争的環境の中で個性が輝く大学」でも、ボランティア活動の体験は、将来における生涯学習の一環としてボランティア活動を含め社会参加活動の促進につながると期待されている。

このように、ボランティア活動を単なる奉仕ではなく、教育経験として、見直す傾向が年々顕著になってきている。

## (3) 大学教育が抱える現代的課題

それでは、大学生が在籍する大学側の考えを見ていきたい。大学教育が抱える現代的課題の一つに、社会に出て即戦力になる人材の育成があげられる。大学では、大学で行われる講義や大学生活の中では十分経験することのできない活動を補う方法や様

々な経験を積むことができる連携先を求めている。また、大学以外の場、いわゆる社会で学生が主体的に自ら望んで活動することにより得られる力とは何なのかを明らかにして欲しいと言われている。

### 3 大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」派遣事業の概要

これまで大学生のボランティア活動への期待について見てきた。ここでは、県教委が平成23年度から実施している事業における大学生のボランティア活動について述べていく。

県内の放課後子ども教室においては、地域のボランティアの協力を得て、勉強やスポーツ、伝統的な遊びや高齢者との交流などの様々な活動が実施されている。しかし、地域によっては、ボランティアの確保が難しいといった課題があり、困っている状況がある。そこで、その課題を解決する方策の一つとして、市町の放課後子ども教室に大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」（以下、「ワクワク学び隊」）を派遣する事業を昨年度から進めている。この「ワクワク学び隊」の派遣のねらいは、放課後子ども教室の活動内容の充実・活性化、及び大学生の社会貢献活動への参加を支援することとしている。

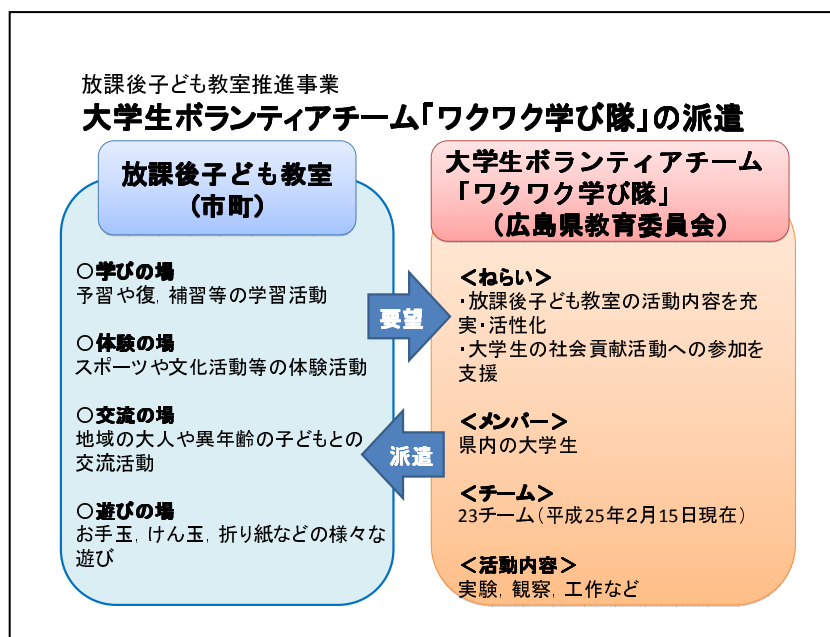


図1 大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」の派遣

派遣の手順であるが、図1にあるように、市町の放課後子ども教室からの派遣要望を県立生涯学習センターが受け、派遣する「ワクワク学び隊」をマッチングし、派遣している。

今年度（平成25年2月28日現在）の「ワクワク学び隊」の登録は、10大学から23

チーム、360名からいただいております、市町への派遣は、16市町に134件実施している。今年度の派遣回数数の目標値は100件であり、その数値を上回る派遣を実施している。

「ワクワク学び隊」が放課後子ども教室で活動したあと、学生と教室スタッフから回収したアンケート結果は、表1の通りである。学生も市町放課後子ども教室関係者も教室での活動に満足しており、これからも教室で活動したい、また、大学生の派遣を受け入れたいと答えている。

事後アンケート(3段階評価)から

|                           |     |
|---------------------------|-----|
| 活動に満足している(学生)             | 85% |
| 活動に満足している(市町教室関係者)        | 95% |
| 今後の活動にいかすことができる(学生)       | 99% |
| 今後も教室で活動したい(学生)           | 99% |
| 今後も教室に大学生を受け入れたい(市町教室関係者) | 98% |

表1 事後アンケート結果

このことから、概ね本事業は成果を上げているとすることができる。



放課後子ども教室での活動の様子



放課後子ども教室での活動の様子

#### 4 アンケート調査の自由記述から見る大学生の成長

##### (1) 業務を進める中での問題意識

前章で述べたように、この「ワクワク学び隊」を放課後子ども教室に派遣することが教室の活動内容の充実や活性化につながっていることについては注目されている。そのことは、市町からの派遣希望が平成23年度74件が平成24年度139件と増加したことからも明らかである。この派遣希望に応えるべく「ワクワク学び隊」の活動可能日等と照らし、マッチング業務を行っているが、希望通りにマッチングできないこともある。今後、派遣希望に十分応え、派遣数を増やしていくためには、「ワクワク学び隊」の登録チーム数を増やしていかなければならないと日々課題として感じていた。

そこで、この2年間でまだ十分整理されていない「大学生自身にどのような力が身についたのか」を明らかにし、それを県内の大学や大学生に積極的にアピールすることで、「ワクワク学び隊」として活動することの有用性について理解を深め、登録チーム数を増やしていくための取組を行っていきたいと考えた。

## (2) ボランティア活動で養成される力 ～社会人基礎力～

本事業では、先ほど紹介した、活動への満足度や今後の活動希望を尋ねるアンケートは実施しているが、その中で直接大学生にどんな力が身についたかを問う設問はない。そこでそれぞれの設問についての自由記述欄の記述を分析することにした。その際、大学生の成長を検証し、明らかにするための指標を「社会人基礎力」において求められている能力要素とすることとした。

この「社会人基礎力」とは、平成17年に経済産業省が大学新卒者に望む基礎的な力として提示しているもので、多くの大学が、学生に習得させたい力の指標として参考にしているものである（参考文献②）。

この社会人基礎力は、図2に示すように、3つの能力に大分類されており、さらに、12の能力要素に分けられている。

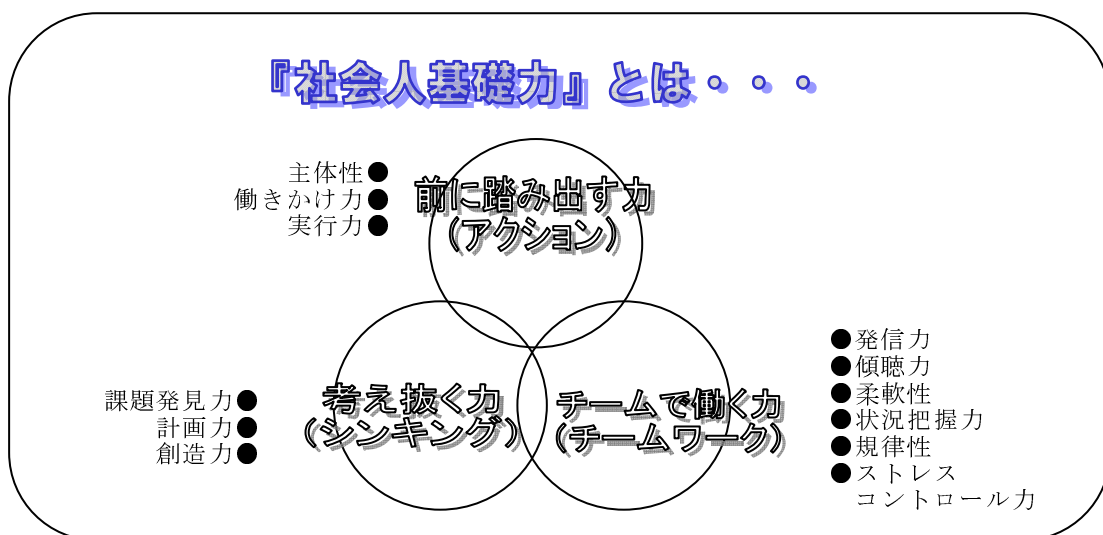


図2 社会人基礎力とは

3つの能力と12の能力要素についての詳細は、表2に示している。

表2 社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素

| 前に踏み出す力 (アクション)：一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力 |  |
|---|--|
| <b>主体性</b>                              | 物事に進んで取り組む力<br>(例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ積極的に取り込む。    |
| <b>働きかけ力</b>                            | 他人に働きかけ巻き込む力<br>(例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ目的に向かって周囲の人を動かしていく。 |

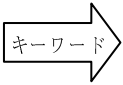
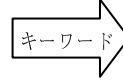
|  |  |
|--|--|
| <b>実行力</b>                                 | <p>目的を設定し確実に行動する力</p> <p>(例) 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。</p>                    |
| <b>考え抜く力（シンキング）：疑問を持ち、考え抜く力</b>            |  |
| <b>課題発見力</b>                               | <p>現状を分析し目的や課題を明らかにする力</p> <p>(例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。</p>                          |
| <b>計画力</b>                                 | <p>課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力</p> <p>(例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。</p> |
| <b>創造力</b>                                 | <p>新しい価値を生み出す力</p> <p>(例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。</p>                                     |
| <b>チームで働く力（チームワーク）：多様な人とともに目標に向けて協力する力</b> |  |
| <b>発信力</b>                                 | <p>自分の意見を分かりやすく伝える力。</p> <p>(例) 自分の意見を分かりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。</p>                      |
| <b>傾聴力</b>                                 | <p>相手の意見を丁寧に聴く力</p> <p>(例) 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。</p>                         |
| <b>柔軟性</b>                                 | <p>意見の違いや立場の違いを理解する力</p> <p>(例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。</p>                       |
| <b>状況把握力</b>                               | <p>自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力</p> <p>(例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。</p>                     |
| <b>規律性</b>                                 | <p>社会のルールや人との約束を守る力</p> <p>(例) 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。</p>                             |
| <b>ストレスコントロール</b>                          | <p>ストレスの発生源に対応する力</p> <p>(例) ストレスを感じることもあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。</p>                    |

(3) 社会人基礎力の12の要素にかかわるキーワードの設定

分析は、社会人基礎力としてあげられている3つの能力、12の要素に従って、学生のアンケートの自由記述欄の記述内容を定性的に分析するために、あらかじめ12の要素につながるキーワードを想定し、それぞれに当てはまる自由記述を抽出していく手法をとった。次の表3が想定したキーワードである。

表3 社会人基礎力のキーワード

| 前に踏み出す力 (アクション) : 子どもたちのために何かしたい。           |                          |   |
|---|--------------------------|---|
| 主体性   | 物事に進んで取り組む力              | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を広めたい。</li> <li>○将来に必要な力を身につけたい。</li> </ul> |
| 働きかけ力                                       | 他人に働きかけ巻き込む力             | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもへの働きかけ</li> <li>○子どもとのかかわり</li> </ul>      |
| 実行力   | 目的を設定し確実に行動する力           | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えていたことができた。</li> </ul>                       |
| 考え抜く力 (シンキング) : 課題解決をして、よりよい活動にしたい。         |                          |   |
| 課題発見力                                       | 現状を分析し目的や課題を明らかにする力      | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○よりよい活動をしたい。</li> </ul>                        |
| 計画力   | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○今後の活動にいかしたい。</li> </ul>                       |
| 創造力   | 新しい価値を生み出す力              | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○参考にする。</li> <li>○臨機応変に対応する。</li> </ul>        |
| チームで働く力 (チームワーク) : チームのメンバーと活動の目標に向けて協力したい。 |                          |   |
| 発信力   | 自分の意見を分かりやすく伝える力。        | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○伝える。説明する。</li> <li>○指導する。</li> </ul>          |
| 傾聴力   | 相手の意見を丁寧に聴く力             | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○アドバイスをいかす。</li> <li>○意見を取り入れる。</li> </ul>     |
| 柔軟性   | 意見の違いや立場の違いを理解する力        | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶことができた。</li> <li>○希望を取り入れる。</li> </ul>      |
| 状況把握力                                       | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力   | キーワード → <ul style="list-style-type: none"> <li>○状況を把握して、臨機応変に行動する。</li> </ul>                 |

|                   |                  |  |                            |
|-------------------|------------------|--|----------------------------|
| <b>規律性</b>        | 社会のルールや人との約束を守る力 |  | ○社会のルールを守る。<br>○子どもの憧れとなる。 |
| <b>ストレスコントロール</b> | ストレスの発生源に対応する力   |  | ○困ったことが起きたときの対応            |

(4) 社会人基礎力のキーワードが当てはまった記述

前述の表3のキーワードを含む自由記述を抽出したのが、次の表4である。

表4 キーワードを基に自由記述を分類 (○：学生，◇：スタッフ)

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 前に踏み出す力 (アクション)：子どもたちのために何かしたい。 |  |
| <b>主体性</b>                      | 活動を広めたい。将来に必要な力を身につけたい。  |
|                                 | <p>○今後も子どもに関わるボランティアなどをしていきたいので、よい経験になった。</p> <p>○大学では子どもとふれあう機会があまりないので、このような活動を通して、子どもとの関わり方など、小学校教員に必要な力を身につけたい。</p> <p>○子どもたちと接する機会が大学生としては少ないが、自分たちが将来目指す仕事では接することがあるため、そのための勉強にもなった。</p> <p>○たくさん子どもたちにヒップホップの楽しさを広めたい。</p> <p>○子どもたちと活動するのは楽しく、たくさんの経験を子どもたちにさせてあげたいと思う。</p> <p>○子どもたちと英会話をして、英語を広めたい。</p> <p>○紙芝居が早めに終わってしまって、紙芝居だけする予定だったが、体を使ったゲームとステレオゲームをした。</p> <p>○子どもたちのイキイキとした姿勢に元気がもらえるので、これからも積極的に活動していきたいと思う。</p> <p>○もっと子どもたちにレクリエーションを通して楽しさを感じてほしいと思っています。それと同時に、私たちもこの活動の中で学べることが多く、これからも積極的に放課後子ども教室の活動に参加したいと思っています。</p> <p>◇「ワクワク学び隊」は積極的に子どもと接している姿勢がよい。</p> <p>◇事前に授業案を作って、熱心に子どもたちに各国の子どもたちの様子を教えてくれた。</p> <p>◇毎回、1時間前から来て、打ち合わせ、電子ピアノの練習など、少しでも子どもたちが楽しく過ごせるように考えてくれている。</p> |
| <b>働きかけ力</b>                    | 子どもへの働きかけ，子どもとのかかわり  |
|                                 | ○子どもたちは、一生懸命、工作をがんばっており、その中で、少しでも役に立てる   |



|   |              |
|---|--------------|
| <p>ように支援することができ、とても満足した活動でした。</p> <p>○ダンスの楽しさを伝えるという目的のために、様々な子どもと関わるという経験は、欠かせないと思う。</p> <p>○子どもたちとのふれあいを大切にして、多くの子どもたちにダンスの楽しさを感じてもらいたい。</p> <p>○自分たちの持っている力を出し切ることができ、子どもたちもアカペラに触れることができ、楽しんでもらえたように感じる事ができた。</p> <p>○活動を通して、子どもたちがこちらの働きかけに対して、どのような反応をするのかが分かりました。</p> <p>◇学生ボランティアの人たちもいきいきとしており、子どもたちにもその情熱が伝わったと思う。</p> <p>◇事前準備も整えられ、スムーズな事業展開で、子どもたちにも理解しやすい様子だった。</p> <p>◇単に物（万華鏡）を作るのではなく、光の屈折、反射といった子どもたちにとっての「なぜ」について解説してもらえた。</p> |              |
| 実行力   | 考えていたことができた。 |
| ○今回の目標としていた「もみじ」の二部演奏ができた。  |              |
| 考え抜く力（シンキング）：課題解決をして、よりよい活動にしたい。  |              |
| 課題発見力   | よりよい活動をしたい。  |
| <p>○新年度で今回の教室での準備が不足していたため次回はしっかりと準備して臨みたい。</p> <p>○初めての活動でもたもたした点や子どもたちの現状が少し分かったので、以後の活動にいかしたい。</p> <p>○子どもたちの注意の引き付け方、休憩時間と活動時間とのメリハリなど、課題もたくさん残った。</p> <p>○盛り上げられなかったゲームもあり、まだまだ力不足を感じた。</p> <p>○子どもたちの注意を一気に引き付けるような働きかけ、声かけの仕方や活動の時間配分等課題が山積している。</p> <p>○ゲームの説明を実際に見て、どこでつまづくのかが分かった。</p>  |              |
| 計画力   | 今後の活動を考えたい。  |
| <p>○もっと高めたい課題が見つかったため、解決するための方法を考えたい。</p> <p>○自分たちが考えていた以上の反応を子どもたちはしてくれました。子どもたちが反応するところが、自分たちの予想していたところと違っていたので、次回は、子どもたちの反応するところをを考えて活動をしたい。</p>   |              |

|   |
|---|
| <p>◇毎回反省をして、次回の活動をより一層すばらしいものにするために、がんばっている姿（指導）がすばらしい。</p> <p>◇子どもたちの親近感があり、活動内容も子どもたちのことを考えて、一生懸命アイデアを出し、「ふれあい」が感じられた活動だった。</p>   |
| <p><b>創造力</b>      参考にする。臨機応変に対応する。</p>   |
| <p>○いつも2時間の活動でしたが、今回は新チームになって初めて1時間で活動をして、これからの活動において時間配分を参考にできる。</p> <p>歌やゲーム・ダンスと幅広い内容だった。時間が少し余ってしまったが、臨機応変に対応していた。</p> <p>◇回を重ねるごとに工夫された取組にしていき、より楽しいワクワク学び隊になっている。</p>   |
| <p><b>チームで働く力（チームワーク）：チームのメンバーと活動の目標に向けて協力したい</b></p>   |
| <p><b>発信力</b>      伝える。説明する。指導する。</p>   |
| <p>○ダンスの楽しさを伝えるのに、様々な子どもと接するのがとても大切だと思う。</p> <p>○工作の過程を説明する際、低学年の子どもと高学年の子どもでは、伝え方を変えなければ理解してもらえないこともあるということに気づかされたので、今後は、その点に注意して、どの学年の子どもにも伝わる言葉遣いを心がけたいと思う。</p> <p>○様々な性格、状況の子どもたちがいて、予想できないことも起こり、先生方の対応の仕方などを見て、学ぶことができた。</p> <p>○私たちのサークルでは、毎年未経験者の1年生が多く入ってきます。この「ワクワク学び隊」に来てくれる子どもたちもダンス初心者の子も多く、「教える力」をこの機会を通してつけることができる。</p> <p>◇丁寧な指導で子どもたちにわかりやすく指導してもらった。</p> <p>◇低学年、高学年のグループに分かれて、懇切丁寧に指導してもらい子どもたちはいきいきした表情で踊っていた。</p> <p>◇希望時間より早くから来て、準備をし、黒板も利用し、体験の内容がわかるようにしてくれたので、よくわかった。</p> |
| <p><b>傾聴力</b>      アドバイスをいかす。意見を取り入れる。</p>  |
| <p>○今回は、子どもたちの実態なども把握できたので、次回からは一人一人に合わせた声かけ、関わり方ができたらよいと思う。</p> <p>○実験器具の改良や、実験について子どもたちから意見をもらえた。</p> <p>○人形劇では、「もっとこうしたらよくなる」というアドバイスがもらえたので、次回の活動にいかしたい。</p> <p>○子どもたちに、より理科がわかりやすく説明するために、改善するところが見つ</p>   |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>り、今後の自分たちの活動にいかすことができると思う。</p> <p>○子どもに対する指導の方法、話、指示の聞かせ方の工夫について考えられた。</p> <p>◇曲の選択から子どもたちと時間をかけて考えるなど、子どもたちの意見をしっかり取り入れてくれている。</p> <p>◇やさしいまなざしで一人一人に接していただいた。</p> <p>◇子どもの意見も取り入れて、一生懸命指導してくれる。</p>   |
| 柔軟性   | <p>学ぶことができた。希望を取り入れる。</p>  |
|       | <p>○子どもとのふれあいを通して、子どもは思っていた以上に何でもすることができていたことが分かった。</p> <p>○子どもたちと実際に触れ合う活動を通して、学ぶことがたくさんある。</p> <p>◇子どもたちの希望を取り入れながら、実施してくれた。</p> <p>◇子どもたちの様子をよく観察してしながらダンスの練習をしたり、休憩を入れたり配慮しながら進行している。</p>  |
| 状況把握力 | <p>状況を判断して、臨機応変に行動する。</p>  |
|       | <p>○1つ1つの出会いを大切に、これからもイキイキした活動をめざし、チームの力を高めていきたいと思います。</p> <p>○もっと子どもたちにレクリエーションを通して楽しみを感じて欲しいと思っている。それと同時に、私たちもこの活動の中で学べることが多く、これからも積極的に放課後子ども教室の活動に参加したいと思っている。</p> <p>○今回は、子どもたちの実態なども把握できたので、次回からは一人一人に合わせた声かけ、関わり方ができたら良いなと思います。</p> <p>○今回4人のところを2人でこなしたので、2人での進め方やフォローなどの役割を常に考えて行動し、今後にいかしたい。</p> <p>◇紙芝居は、それぞれの役の声色等を工夫して読み語りができ、子どもたちを引き込んでいた。常に積極的に子どもたちの中に入っていく姿勢は好感が持てた。</p> <p>◇材料の準備や活動時の説明資料の準備、会場の準備・片付けに至るまでメンバー全員で行い、参加児童に対しても一人一人に対し、適切な言葉かけや手助け等配慮して活動していた。</p> |
| 規律性   | <p>社会のルールを守る。子どもの憧れとなる。</p>  |
|       | <p>○子どもと決めたルールを守ることを徹底することに気付かされた。</p> <p>◇学生は礼儀正しく、好印象を受けた。子どもたちと積極的にかかわろうという姿勢が見られた。</p> <p>◇大学生の活動の様子は、とても前向きに一生懸命活動しており、こうした機会を提供することで、小学生及び大学生の青少年育成にもつながる。</p>   |

◇早めに来て、丹念に準備等を行うなど、責任感を持って活動している様子がひしひしと伝わってきた。

◇常に丁寧に「ありがとうございます」という言葉が発せられるすばらしいグループだった。また、時間配分をしっかりと、感心した。

#### ストレスコントロール 困ったことが起きたときの対応

○今回は必ずしもダンスが好きでやりたいと思ってきた子どもたちばかりではなかったため、そういう子どもたちと接するときについて考えるべきことが見つかりました。

○時間が余ったときにどう対応するかの力をつけなければならないことに気がついた。

○工作の手伝いをするという活動は初めてで、最初は不安でしたが、子どもたちが集中して取り組んでいる姿を見て、私たちも、もっとがんばろうという気持ちになりました。

このように社会人基礎力の12の要素にそれぞれキーワードを設け、アンケートの自由記述を分類してみると、どの要素にも学生の自由記述が当てはまる。また、市町の放課後子ども教室スタッフからの自由記述からも同じく分類し当てはまった。この結果から、「ワクワク学び隊」の活動を通して、学生に社会人基礎力が身につけていることを確認することができた。

紙面の関係上、12の要素全てにおいて説明することはできないので、各能力から1要素ずつ見ていく。

まず、「前に踏み出す力」の中から「主体性」について、見ていく。自由記述の中で学生は、「たくさん子どもたちに活動の楽しさを広めたい」など、自分達のチームの活動を子どもたちにも体験を通して広げていきたいという内容や「小学校教員に必要な力を身につけたい」など、自分の将来に必要な力を身につけたいという内容の記述がある。放課後子ども教室スタッフからも「事前に活動案を作成している」「毎回打ち合わせをし、子どもたちが楽しく活動できるように考えてくれている」などの内容の記述があり、学生が目的を持ち、自ら進んで活動に取り組む力が身につけていると考えられる。

次に、「考え抜く力」の中から「課題発見力」について、見ていく。「声かけの仕方や活動の時間配分等の課題が見つかった」「準備が不足していたため、次回はしっかりと準備して臨みたい」などの内容の記述があり、次回の活動にいかすために、活動後、ここを改善しよう、ここを工夫しようとチームの中で課題を明らかにする力が身につけていると考えられる。

最後に、「チームで働く力」の中から「発信力」について、見ていく。「子どもたちもダンス初心者が多く、「教える力」をこの機会を通して、身につけることができる」な

どの内容の記述があり、放課後子ども教室スタッフからも「丁寧な指導で子どもたちに分かりやすく指導してもらった」「希望時間より早くから来て、準備をし、黒板も利用し、体験の内容がわかるようにしてくれたので、よくわかった」などの記述があり、子どもたちに活動の内容や方法を説明したり、指導したりする力が身につけていると考えられる。



放課後子ども教室での活動の様子

#### 4 今後の課題 ～むすびにかえて～

ここまで、「ワクワク学び隊」の活動を通して、大学生の身についた力について、社会人基礎力を指標として見てきた。最後に今後の課題として、次の2点をあげる。

まず、1つ目は、学生のステップアップをめざして、複数回のマッチングを行うことで、多くの学びの機会を学生に提供していくことである。それぞれの「ワクワク学び隊」は、自分たちの得意とする活動内容を中心に子どもたちと活動している。単発ではなく、複数回の活動を重ねていく中で、活動内容を工夫し、質の高い活動になっていく。例えば、活動当初は、子どもたちの宿題の支援や放課後子ども教室からのリクエストを受けて活動していたチームが、複数回の活動を重ねる中で、読み聞かせや紙芝居を自分たちのチームの活動内容として取り入れ、現在では、この活動を主として行っている事例がある。



放課後子ども教室での活動の様子

2つ目は、社会教育に携わる者として、大学生を支える教育的支援を行うことが必要だと考える。

市町の放課後子ども教室関係者から学生への支援としては、活動前の十分な打ち合わせが必要となってくる。事前打ち合わせがしっかりとできていれば、学生は安心して自信をもって活動することができ、自分たちの持っている力をしっかりと発揮することができる。活動中は、日頃の子どもの様子を把握されている放課後子ども教室のスタッフが必要に応じて子どもへの声かけ等をしていただくことにより、活動がスムーズに進むと同時に、放課後子ども教室スタッフの子どもへの接し方を学ぶことができる。学生は、放課後子ども教室での活動を通して、何かを学んで帰りたいと思っており、当日の活動についてアドバイスをいただくと、次回からの活動にいかしていくことができる。ある市町では、学生の活動後の時間が許せば、スタッフと学生が当日の活動について反省会を開き、感想の交流等をしたり、スタッフの皆さんから、学生のよかったと

ころや改善したらよいところなどをアドバイスいただく時間を設けてくださっていたりする。学生にとっては、直接スタッフの方と話ができる良いチャンスであり、次の活動に向けての意欲や自信につながっていくものだと考える。

一方、県からの学生への支援としては、市町の放課後子ども教室と「ワクワク学び隊」のマッチングを進め、学生により多くの活動の場、学びの場を提供したいと考える。また、初めて活動をするチームを中心に、市町との打ち合わせについてのアドバイスや活動内容等についてのアドバイスを行うことで、学生が安心して「ワクワク学び隊」としての活動をスタートできるように支援していく。学生の学びの場の提供の面では、学生、大学関係者、放課後子ども教室関係者が一堂に会し、開催している「ワクワク学び隊」実践交流会の内容をさらに充実させる必要がある。この交流会では、大学生、大学関係者及び市町放課後子ども教室関係者が交流する中で、今後の活動のヒントを得たり、自分たちの活動が社会的に意義あることだということを再確認できる場として継続していく。放課後子ども教室での学生の活動の情報提供の面では、「ワクワク学び隊」の活動に関する情報を当センターのホームページに掲載することにより、学生の活動に対する意識を高め、今後の活動にいかすことのできる内容を提供したいと考える。

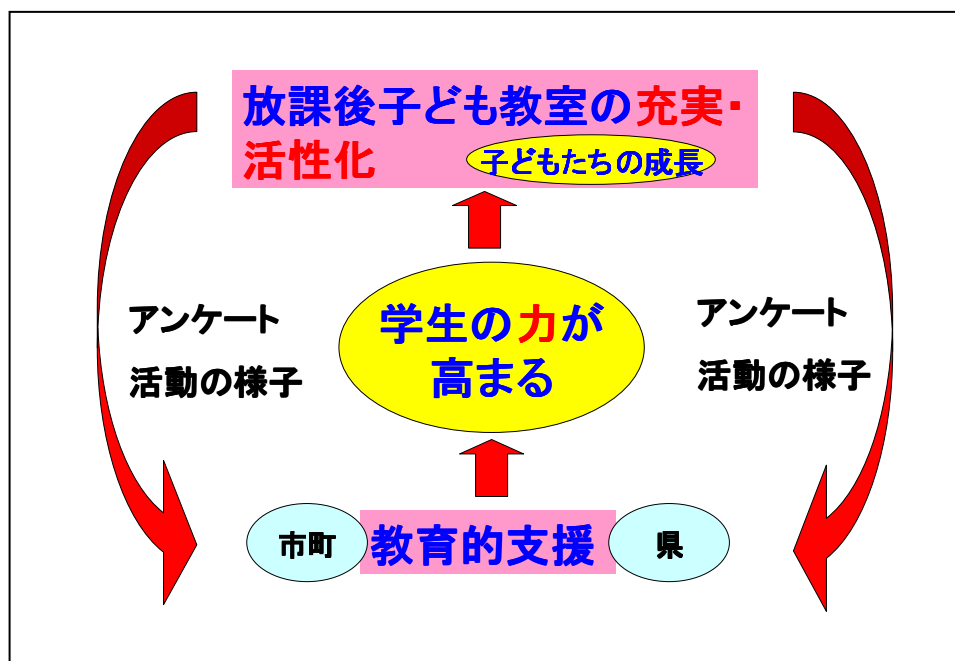


図2 支援の好循環

図2は、支援の好循環を示した図である。行政の教育的支援により学生自身の様々な力が高まり、それによって放課後子ども教室の活動の充実・活性化が図られる。活動後、アンケートや活動の様子を聞き取り、よりよい活動にするために、さらに学生に教育的支援を繰り返すことにより、学生を高め、本事業の目的である放課後子ども教室の活動内容の充実・活性化が図られると考える。

## 参考・引用文献および参考URL

- ①佐々木正道「大学生とボランティアに関する実証的研究」2003年6月。
- ②学校法人河合塾「体系的な「社会基礎力」育成・評価モデルに関する調査・研究実施報告書 平成23年2月。
- ③全国学童保育連絡協議会編集「よくわかる放課後子どもプラン」2007年4月。
- ④財団法人内外学生センター「大学とボランティア スタッフのためのガイドブック」平成13年2月。
- ⑤独立行政法人日本学生支援機構『学生ボランティア活動に関する調査報告書』平成18年3月。
- ⑥広島県民ボランティア活動推進会議「学生と地域をつなげる絆づくり事業 学生の地域活動応援プロジェクト活動報告書 平成23年度」2012年3月。
- ⑦日本社会教育学会年報編集委員会「学校・家庭・地域の連携と社会教育」2011年9月。
- ⑧下浦忠治「放課後の居場所を考える」2007年5月。
- ⑨青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について（答申）  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1287510.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1287510.htm)  
: 2012年11月25日)
- ⑩日本経済新聞『大学生のための社会基礎力特集サイト』  
(<http://ps.nikkei.co.jp/kisoryoku/about/index.html>:2013年2月5日参照)。
- ⑪ベネッセ『VIEW21 大学版 2011 特別号』  
(<http://benesse.jp/berd/center/open/dai/view21/2011/12/pdf/02.pdf> : 2012年12月28日参照)。